

巻 頭 言



相模原市長 本村 賢太郎

市制施行 70 周年の先へ 誰もが暮らしやすい「さがみはら」

相模原市では、すべての人の命は平等でかけがえのないものであるという理念のもと、国籍や障がいの有無にかかわらず、あらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らすことのできる「共にささえあい生きる社会」を実現するため、障がいに関する理解の促進や差別解消に向けた取り組みを進めています。2024年3月には「相模原市人権尊重のまちづくり条例」を制定し、一人ひとりがかけがえのない個人として尊重され、互いの人権を認め合う共生社会の実現に取り組んでいます。「すべての人に！」を合言葉に、人権尊重の理念を広く社会に浸透させ、これからも差別や偏見のないまちづくりを推進してまいります。

そのようななか、相模原市は本年市制施行 70 周年の節目を迎えます。1954年当時 8 万人だった人口は、工場の誘致などを経ていまや 72 万人を数えるに至り、市内の在住外国人数も 500 人から 38 倍の 1 万 9,000 人となっています。グローバル化などの進展とともにさらなる外国人数の増加が見込まれることから、外国人市民の暮らしやすい環境づくりや日常生活の支援に向け、2023 年度からは、ボランティアで運営していた「さがみはら国際交流ラウンジ」を市の直営事業としました。ボランティアとの協働による多言語での情報提供や外国人支援事業、国際理解事業は継続しつつ、外国人市民からの相談や問い合わせに対してワンストップでわかりやすい案内ができるよう市職員が常駐したほか、税金やごみの分別方法など生活に関わる日本の制度やルールについて 10 カ国語で動画を作成するなど、すべての人が暮らしやすいまちとなるよう取り組みを進めています。

相模原市は、東京至近にありながら「都市と自然のベストミックス」の魅力が輝き、首都圏南西部の広域交流拠点都市としてさらなる発展が見込まれています。都市部には「はやぶさ」「はやぶさ 2」などの小惑星探査機を研究開発した JAXA 宇宙科学研究所相模原キャンパスをはじめ多数の大学や研究機関が所在し、さがみロボット産業特区に指定された地域特性を生かしてロボット関連などの産業が集積しています。その一方、神奈川県民の水がめとして欠かせない相模湖や宮ヶ瀬湖など 5 つの湖や清流を育む豊かな森林が広がる水源地域であり、週末には都心から日帰りも可能なキャンプ場がにぎわう自然に恵まれたまちです。

県内唯一のリニア中央新幹線の新駅建設も進み新たな可能性が広がるなか、総務省が発表した 2023 年の住民基本台帳人口移動報告では転入超過数は 2,321 人で全国第 11 位と、3 年連続で上位にランクインし、多くの人に選ばれるまちとなっております。「世界の人や企業から選ばれる、誰もが暮らしやすいさがみはら」の実現に向け、引き続き力を尽くしてまいります。